



ユニバーサルデザインオペラ
オペラプラザ岡山創立 10 周年記念 公演
歌劇 天空の町 ～ 別子銅山と伊庭貞剛～

2019. 1. 14
岡山市民会館 大ホール

No 23



小松電機産業株式会社

ユニヴァーサルデザインオペラ
プロ・アマ、年齢、ハンディのあるなしにかかわらず誰もが輝ける舞台を！
という趣旨のもと、オペラプラザ岡山は練習・公演活動を行っています

オペラプラザ岡山創立 10 周年記念公演

歌劇 天空の町

べっしどうざん い ば ていごう
～ 別子銅山 と 伊庭貞剛 ～

台本・作曲：石多エドワード 指揮：萩原 勇一

採掘製錬の煙害で荒れ果てた別子銅山を緑に還した男 伊庭貞剛。
彼の優しくも堂々とした生きざまを、子供たちが元気に歌い踊りながら美しい吹口ディで綴ります。

日時 1/14 2019 (月・祝)

13:30 開場 14:00 開演

場所 岡山市民会館 大ホール
岡山県岡山市北区丸の内2-2-1
Tel 086-223-2165

字幕付

チケット
●前売券
高校生以上：2,500 円
中学生以下：1,000 円
※ 当日券は 500 円アップ
●チケット販売
岡山シンフォニーホールチケットセンター
さんざや

お問合せ
オペラプラザ岡山 事務局：広瀬
TEL: 090-6656-1976
E-mail: opera_plaza_okayama@yahoo.co.jp
facebook: オペラプラザ岡山
公式ブログ: <http://blog.goo.ne.jp/operaplazaokayama/>

出演者

宇高 賢 田辺 真一 高橋 祥子 広瀬 千加子 岡崎 起恵子 今井 勉 福岡 隆雄 繁内 彩葉 越智 大之	伊庭貞剛 第一幕、旅人 伊庭貞剛 第二幕 松 (伊庭の最初の妻) 梅子 (伊庭の二番目の妻) 田鶴子 (伊庭の母) 広瀬幸平 (伊庭の叔父) 塩野門之助、田向重右衛門 森の精 切り上がり長兵衛	武藤 美鶴 篠原 加代子 梶谷 淳子 宮本 萌花 神保 光希 安井 慎由紀 津島 一郎 岡本 直美 折元 純子	心の精S、長兵衛相手役 心の精S、隆子 (伊庭の娘) 心の精A、幾久子 (伊庭の娘) 心の精A 旅人の相手役 旅人の相手役 旅山和尚 マサ (塩野の二番目の妻) ナレーション	オペラプラザ岡山合唱団 オペラプラザ岡山児童合唱団 オペラプラザ岡山管弦楽団 オペラプラザ愛媛有志 岡山岳風会
---	--	---	---	---

舞台協力
照明：オールライツ 小山みのり

主催：オペラプラザ岡山
共催：NPO法人 東京オペラ協会
助成：公益財団法人福武教育文化振興財団/公益財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団/公益財団法人エネルギー文化・スポーツ財団
後援：岡山県/岡山市/岡山県教育委員会/岡山市教育委員会/岡山県社会福祉協議会/岡山市社会福祉協議会/公益社団法人岡山県文化連盟/NPO法人まちづくり推進機構岡山

練習風景動画 (前1分)

スマートフォンのカメラでQRコードを読み取り動画を再生してご覧ください。

出演者の子どもたち

総監督の石多エドワード氏 (中央) と小松明夫理事長 (右)・佐藤京子氏 (左)

2018年12月劇場天空の町出演者練習風景 (岡山)

ユニヴァーサルデザインオペラ
プロ・アマ、年齢、ハンディのあるなしにかかわらず誰もが輝ける舞台を！
という趣旨のもと、オペラプラザ岡山は練習・公演活動を行っています

オペラプラザ岡山創立10周年記念公演

歌劇 天空の町

べっしどうざん い ば ていごう
～ 別子銅山 と 伊庭貞剛 ～

台本・作曲：石多エドワード 指揮：萩原 勇一

日本語上演 字幕あり

2019年1月14日 (月・祝)
開演 14:00 開場 13:30
岡山市民会館大ホール

主催：オペラプラザ岡山 共催：NPO 法人 東京オペラ協会
助成：公益財団法人福武教育文化振興財団 公益財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団 公益財団法人エネルギー文化・スポーツ財団
後援：岡山県 岡山市 岡山県教育委員会 岡山市教育委員会 岡山県社会福祉協議会 岡山市社会福祉協議会
公益社団法人岡山県文化連盟 NPO 法人まちづくり推進機構岡山

ご挨拶



芸術監督
石多 エドワード

オペラプラザ岡山が出来て、あっという間の10年でした。

ユニヴァーサルデザインを大切に、ぶれないまっすぐな姿勢。
それを貫いて牽引してきた広瀬さんたちの大変な努力——。
改めて敬意を表します。

歌手たちの力も着実についてきたのはもちろんですが、特にユニヴァーサルデザインオペラについては、全国のオペラプラザグループの中でも第一人者と言える働きをしてきました。

そして10周年を記念して歌劇「天空の町—別子銅山」にいよいよ取り組むことに。
この歌劇はもともと、プロアマを問わず、幼い子ども、高齢者、いろいろな障がいを持つ方々、あらゆる人の参加が可能なユニヴァーサルデザインを意識して作ったものです。

しかも内容は、100年以上も前に公害問題と真正面から取り組み、それを日本の心を大切にしながら解決に導いた伊庭貞剛。

余りに壮大で深遠な物語であるため、今回はその導入としてナレーションで繋いだハイライト公演をご覧ください。

日本の心とは何か？それは全幕で3時間かかる本番を見て分かって頂くしかないように思いますが、素朴で質素に清貧を重んじながらどこまでも謙虚であることが日本の心だ。こう最後に言い遺す伊庭の言葉が皆様の心に届きますよう。

今回はまだまだ未熟なところを散見されるかと思いますが、歌手たちには全力で立ち向かってもらいましたのでご容赦くださり、来年の本公演を更にご期待ください。

とはいえ、子どもたちがこれほどまでに大活躍できるオペラはないでしょう。

本日は、どうぞ思い切りお楽しみください。



指揮者
萩原 勇一

本日はご来場ありがとうございます。

今回の演目「天空の町」は、いわゆるお馴染みのものではない、僕らにとって初めて触れる作品です。

ということは、本日お越しいただいた皆さんにとっても「初めて聴く（観る）オペラ」ということになる訳で、今回はその内容や音楽をなるべくわかり易くお伝えすることを念頭において練習、準備してきました。

このオペラの作曲者・石多エドワード氏の「汚れなき音楽」と「音楽を信じる心」を、本日はオペラプラザ岡山のメンバーが精一杯表現します。どうぞご期待ください。

最後に…初めて聴くオペラは、舞台上の進行だけではお話の展開が解りにくいことがままあります。曲間のナレーションや字幕にも是非ご注目頂き、オペラ全体を楽しんでもらえたら幸いに存じます。



事務局長
広瀬 千加子

2009年4月に発足してから毎年1回ユニヴァーサルデザインオペラの公演を行ってまいりました。過去9回はオペラの中で馴染みのある「魔笛」「フィガロの結婚」「ヘンゼルとグレーテル」「カルメン」を上演し、ユニヴァーサルデザインオペラを一人でも多くの方に知っていただくことに努めました。

今回の記念すべき創立10周年公演は、メッセージ性の強いエドワード監督の渾身の作「天空の町」に取り組み、新たな一歩を踏み出します。

視覚障がいのおふたかたと盲導犬一匹を含む5歳～75歳の男女約45名がソリストと合唱で出演。曲はボランティア奏者約25名で編成したオーケストラが奏で、岡山岳風会の方々の詩吟が舞台に華を添えて下さいます。

さぁ！ 胸高鳴る時はもうすぐです！

あらすじ

《プロローグ》

別子山に秘めやかに咲く花と深い緑の木々が優しい歌を歌っている。
そこに旅人がやって来て、活気づいていた往時の別子山を蘇えらせる。

《第一幕》 弘化4年～明治27年（1847年～1894年）

別子山の昔からの生活の様子。切り上がり長兵衛による銅山の発見、広瀬幸平の指導力による繁栄、それらが次々と展開していく。

一方、伊庭貞剛は22歳で尊敬する勤皇の志士、西川吉輔の要請で動乱の京都へと旅立つ。
明治維新以降は官吏の世界で働くこととなる。

そして松と結婚するが、北海道での務めに付いて行った松は無理がたたり、幼いはる子を残し早世してしまう。やがて後添えに梅子もらい、伊庭は仕事へと邁進して行く。

しかし、天下・国家を考えて行動してきた正義感あふれる伊庭にとって、墮落した藩閥政治の官界はもはや自分が住むべき世界でないと考え、きっぱりと辞めてしまう。
そして故郷に帰り家族との束の間の団らんを楽しむ。

その頃、住友の発展のため優秀な人材を探していた広瀬は、33歳の伊庭を住友に本店支配人として誘う。伊庭は住友に勤めながら、日本初の衆院選で当選するも、政治の世界にも失望してやはり辞めてしまう。
そして、煙害で大変な状況にある別子銅山に単身向かうことを決意する。

《第二幕》 明治27年～大正15年（1894年～1926年）

火中の栗を拾うがごとく、荒れ果てた別子銅山に來た48歳の伊庭貞剛。

自然が徹底的に破壊された別子山の嘆きの声を深く抱きとめながら、過酷な労働に苛立つ鉱夫たちとの危険な折衝にも誠実に粘り強く向き合い解決に導く。
煙害を無くすために、四阪島に製錬所を移転する決定を下し、山を緑に戻すため、年間100万本の植林をするなど、次々と実行してゆき、5年後にはほぼ解決を見て大阪に帰って行く。

労使紛争の解決、煙害の克服、別子山の緑化など、全てを熟慮、祈念、放下、断行し、ついに解決に導けたことを、帰阪して誇らしげに報告する伊庭に、信頼する義山和尚の「世の中まじめに観てな」の一声。
やがて自分の成功は難しい事務作業に一生を捧げてくれている部下、別子銅山で働いた多くの鉱夫やその家族、そして大自然からの恩恵があって初めて出来たことなのだと気づき、義山和尚に改めて感謝する伊庭。

別子山を緑に戻せたことを謙虚に感謝する伊庭に「晩晴」を見出す。

日本人の本来の心、清貧、陰徳、謙虚、素朴、無為自然、自然讃美などにこそ、世界へのメッセージがあると、死を前にした伊庭が静かに語る。

《エピローグ》 大自然の歌

別子山がもう一度静かに大きく浮かび上がる。
自然こそが神だと旅人は語り、微笑みながら去ってゆく。
最後には別子山に生きるすべての命がもう一度元気に蘇り、大自然に抱かれることの幸せが大合唱で歌いあげられて幕となる。

ソリスト・合唱

**伊庭 貞剛 (第一幕)・旅人**
宇高 賢オペラプラザ岡山と出会って早 10 年。
アマチュアでもここまでできる！
ということを皆様にお届けいたします♪**松 (最初の妻)**
高橋 祥子天空の町は、私が育った町のお話。
情景を感じていただけるよう
心を込めて歌います♪**田鶴子 (貞剛の母・幸平の姉)**
岡崎 起恵子存在感のある、明治の「母上」を、
心を込めて演じたいと思います。
どうぞよろしく！**塩野 門之助**
福岡 隆雄日本の心を描いたこの歌劇を
どうぞお楽しみください！
本日はご来場ありがとうございます♪**心の精 Sop・長兵衛相手役**
武藤 美鶴本日はご来場に感謝です！
今回は監督のオリジナル。皆様の心に
残りますように。挟みチラシにも注目を**心の精 Sop・隆子 (貞剛の娘)**
篠原 加代子ご来場ありがとうございます♪
明治時代に公害問題に取組んだ伊庭貞剛。
現代へのメッセージをお伝えできるよう頑張ります。**心の精 Sop・村人・花**
吉井 美幸 (オペラプラザ愛媛)新居浜から参加します。
遠い未来でも、花や木々、動物たちが
楽しく歌っていることを願って歌います。**義山和尚**
津島 一郎舞台上に立って語るなど人生初体験。
しっかり声がでるように無心に頑張ります。**切上がり長兵衛**
越智 大之 (オペラプラザ愛媛)天空の町には全国各地で出演しましたが、
今回初めて、ここ岡山で出演をさせて
いただくこととなりました。**マサ (塩野の二番目の妻)**
岡本 直美歌は苦手でしたが、優しい仲間と歌ううちに、
少しずつ歌えるようになりました。
今とても楽しいです。**広瀬 幸平・伊庭 貞剛 (第二幕)**
今井 勉何年も前に、別子山でのパンフルートや
歌のコンサートの依頼をいただきました。
今回の出演に運命感します！**梅子 (二番目の妻)**
広瀬 千加子16 歳で伊庭に恋をした梅子から
10 人の子どもの育て上げ陰で伊庭を支え続けた
66 歳の梅子までを演じ分けます。**森の精**
繁内 彩菜今年は森の精としてメッセージを
伝えられるよう、心を込めて演じます！**心の精 Alt・幾久子 (貞剛の娘)**
梶谷 淳子年々頼もしくなる若手メンバーや成長する
子ども達の姿を励みに、今年も舞台上に立ちました。
精一杯楽しみます！**心の精 Alt・村人・花**
宮本 萌花今年も大好きな方々と舞台上に立てて幸せです。
どんな時も音楽が身近に存在していることに
感謝。**心の精 Alt・村人・花**
秦 美智世 (オペラプラザ愛媛)自然の中で生かされていることに
感謝しながら、演じたいと思います。
皆さんにこの思いが届きますように。**花 (旅人の相手役)**
安井 慎由妃小2の時誘って頂いて早 6 回目。
今回初めて役を頂いての出演です。
精一杯頑張ります!!**花 (旅人の相手役)**
神保 光希岡山市立富山中学校 1 年。
6 回目の出演ですが初めてのセリフ、
役になりきって頑張ります！**伊庭耕之助 (少年貞剛)**
西川 舞岡山初「天空の町」にとっても緊張しています。
動物、耕之助、子どもの役の演技がうまくできるよう
頑張ります。**はる子 (貞剛の娘)**
岸本 美紗希セリフや歌を間違えないように
大きな声で頑張ります。**ナレーション**
折元 純子伊庭貞剛の生き方が、
今まさに必要とされている時代だと
思えてなりません。
ナレーション頑張ります。**農民女・花**
山本 真理オペラプラザ岡山 10 周年、
この記念すべき公演を
ご来場の皆様楽しんで頂けるよう
一生懸命歌います。**村人・花**
澄川 織恵今年度から参加させていただいております。
昨年度見た舞台のように、
心動かす舞台になるように頑張ります。**村人・花**
藤田 千代美

一生懸命がんばります！

**村人・花**
山口 陽子 (オペラプラザ長崎)岡山のお客様と岡山のオペラの仲間たち
にお会いできることを楽しみに長崎県平戸市より
参りました。

動物・子供

浅沼 朋きょ年演技や歌をした時よりももっと
もり上がるようにがんばるので見て下さい。**井内 穂乃花**初めてで緊張しますが、練習したことを
出しきってみなさんに楽しんでいただけたら嬉しいです。**岸本 咲都希**観に来て下さる人に楽しんでもらえるよう、
笑顔で楽しく演技したいです。精一杯演技するので観て下さい。**岸本 瑞希**歌が大好きなので大きな声で歌います。
歌以外も体や表情などで表現できるよう頑張ります。**岸本 千彩希**

セリフも動きも全部がんばります。

坂口 紗菜ミュージカルを観てから舞台に興味をもちました。
初めての舞台で緊張するけど、楽しくがんばります。**谷本 紗由里**

本番、はっきりと大きな声で歌ってがんばりたいです。

原田 美彩オペラプラザに参加して 4 年目になります。
このオペラははじめてですので、がんばります。**原田 里桜**

私は一言だけど、セリフがあるので、頑張ります。

原田 由羽

私はこのオペラの中の『星たちの歌』 がきれいで大好きです。

ソリスト・合唱

**村人・花**
石井 みどり音楽が好きなのに、
私に関わってくださっている皆様に、
今までとこれからの事に、全てに感謝です。**社員・村人**
篠原 義喜参加 5 年目。いまだに緊張します。
緊張に負けないように任された事を
一生懸命に頑張ります！**炭鉱夫・村人**
廣田 修 (オペラプラザ長崎)娘の付き添いで行ったとき、
石多エドワード先生に誘われて入会し、
今なっています。**田向 重右衛門・炭鉱夫**
岩永 一也 (オペラプラザ長崎)記念すべき公演がどのような素敵なものに
なるのかとても楽しみにしております。
素晴らしい出会いに感謝。**炭鉱夫・村人**
伊庭 一磨

伊庭の生まれ故郷滋賀より参りました。

**藤井 莉可**今年で 6 回目！オペラのおかげで歌と踊りが大好きになりました。
楽しんでもらえるように合唱を頑張ります。**藤井 郁**年中組からの出演で、5 回目になります。
歌うことが大好きで、本番は大きな声で楽しく笑顔で歌います。**松田 一咲**いっしょけんめい練習しました。今日も心をこめてがんばります。
みなさん！ぜひ、見てください。**山本 紗歌**今年は、一言、セリフがあります。
緊張するけど、楽しみです。頑張ります!!**秦 美代子 (オペラプラザ愛媛)**青い空や海を見ると
心がやさしい気持ちになります。
青い空と海をイメージしながら
歌おうと思います。**秦 雄路 (オペラプラザ愛媛)**動物をするのが楽しいです。
お友だちと一緒に元気いっぱい頑張ります。

オペラプラザ岡山管弦楽団・詩吟

オペラプラザ岡山管弦楽団

◆指揮者◆



萩原 勇一

島根大学農学部環境保全学科を経て、熊本県庁に入庁し農政部で働くも、指揮者への夢を諦めきれず、30歳でくらしき作陽大学音楽学部に入學。2005年3月同大学指揮専修卒業。これまでに指揮法を志賀 保隆氏に師事、故・岩城 宏之、田中 一嘉、山下 一史、J. リプリー、鈴木 孝佳（TAD 鈴木）各氏に学ぶ。管弦楽・オペラ・吹奏楽・邦楽・合唱等、岡山県内外で幅広いジャンルの指揮活動を行なう他、作・編曲活動も行なう。現在、エスパス管弦楽団、津山交響楽団、邦楽ラボ、Okayama Civic hall Brassの常任指揮者、オペラプラザ岡山、やかげ混声合唱団、岡山市消防音楽隊の指揮・指導を務める。倉敷市玉島在住。

◆コンサートミストレス◆



濱田 南

4歳からヴァイオリンを始める。岡山城東高校卒業。国立音楽大学卒業。同大室内楽コース終了。ヴァイオリンを川上 昇、堀 正文 諸氏に師事。室内楽を徳永 二男、漆原 啓子諸氏に師事。岡山フィルハーモニー管弦楽団員 ensemble jaguar メンバー（岡山を拠点に活動するアンサンブル）

【1stヴァイオリン】

濱田 南 小林 佐知

【チェロ】

市川 清 市川 みずほ

【フルート】

横井 由花 井上 明日香

【ホルン】

畑 賢俊 松原 真帆

【2ndヴァイオリン】

吉信 雅庸 野田 卓也

【コントラバス】

仲原 利江

【オーボエ】

加茂 清太郎 高田 由宇

【トランペット】

川村 恵理 三原 一孝

【ヴィオラ】

宮本 幸子 家守 康代

【電子ピアノ】

小林ふさ子

【クラリネット】

綱川 則枝 多田 朋子

【トロンボーン】

横田 征也

【ファゴット】

大賀 智子

【パーカッション】

兼田 淳平

詩吟・岡山岳風会

中村 岳双 大西 美岳 栗山 美風 河野 恵風 安木 美山

指導：千田 岳鵬

オペラプラザ岡山活動履歴・協力

舞台協力

【練習ピアニスト】



岡本 直美

岡山大学教育学部音楽専攻卒業
故・金澤 和孝、三宅 道子、笠岡 あおひの
各氏に師事。
本日はマサ役をします。



広瀬 千加子

岡山大学教育学部音楽専攻卒業
林 公子、故・安藤 仁一郎、小阪 文彦子の各氏に師事。
第三回ギロックCD制作オーディション連弾部門で入選。
2009年4月オペラプラザ岡山発足時より事務局長を
任され現在に至る。

【照明】 オールライツ 小山 みのり

【オペラプラザ岡山事務局】

事務局長：広瀬 千加子 事務局次長：宇高 賢 庶務：梶谷 淳子 広報：武藤 美鶴
点字パンフレット：鈴木 鈴子 字幕・パンフレット：篠原 加代子 会計：高橋 祥子 繁内 彩菜

オペラプラザ岡山の活動

『プロ・アマ、年齢、またハンディのあるなしに関係なく、誰もが輝ける舞台を！』
という主旨のもとに、オペラの練習&公演活動を行っています。

2009年4月 オペラプラザ岡山発足

2010年3月 『フィガロの結婚』全幕

2011年3月 『魔笛』全幕

2011年7月 ユニヴァーサルデザインオペラ ガラコンサート

2012年3月 『フィガロの結婚』全幕

2013年3月 『ヘンゼルとグレーテル』全幕

2014年3月 オペラプラザ岡山5周年記念公演

2015年1月 『カルメン』全幕

2016年3月 『魔笛』全幕

2017年3月 『フィガロの結婚』全幕

2018年3月 『カルメン』『ヘンゼルとグレーテル』

モーツァルト作曲 三木 記念会館ホール

モーツァルト作曲 岡山市民会館大ホール

モーツァルト作曲 天神山文化プラザホール

モーツァルト作曲 岡山市民会館大ホール

フンパーディンク作曲 岡山市民会館大ホール

モーツァルト作曲 岡山市民会館大ホール

ビゼー作曲 岡山市民会館大ホール

モーツァルト作曲 岡山市民会館大ホール

モーツァルト作曲 岡山市民会館大ホール

ビゼー作曲フンパーディンク作曲 岡山市民会館大ホール

●オペラプラザ岡山団員募集！！●

練習日程 月2回 原則 第2・4土曜日 18時～21時

岡山市立岡輝公民館を中心に練習

総合指導 石多エドワード（NPO法人東京オペラ協会代表・芸術監督）

入会金 1,000円

月会費 一般 4,000円 / 大学生 2,500円 / 高校生以下 2,000円

※1 資料代（楽譜、DVD等）は必要に応じて別途徴収いたします。

※2 チケットノルマあり

♥お問合せ♥

オペラプラザ岡山 事務局：広瀬

tel：090-6656-1976

E-mail：opera_plaza_okayama@yahoo.co.jp

公式ブログ：http://blog.goo.ne.jp/operaplazaokayama/

facebook：オペラプラザ岡山

東京オペラ協会グループ連絡先一覧

http://www.tokyo-opera.gr.jp E-mail:office405@tokyo-opera.gr.jp

♪東京事務局

165-0023 東京都中野区江原町1丁目47-13 飛沢ビル3-D

Tel:03-5906-5253 Fax:03-5906-5254

♪九州本部

859-3712 長崎県東彼杵郡波佐見町中尾660

Tel:0956-85-2027 Fax:0956-85-6267

♪オペラプラザ長崎（石多）

：090-4380-2339

♪オペラプラザ福岡（原田）

：090-5294-7931

♪オペラプラザ岡山（広瀬）

：090-6656-1976

♪オペラプラザ愛媛（秦）

：080-3164-1148

♪オペラプラザ東京（田村）

：090-5817-9401

♪オペラプラザ関西（大島）

：090-9137-1976

♪オペラ入間キッズ（横山）

：090-9673-6928

公益社団法人日本詩吟学院

中国地区 岡山岳風会

目 標 『健康第一・切磋琢磨』

モットー 『明るく・楽しく・真剣に』

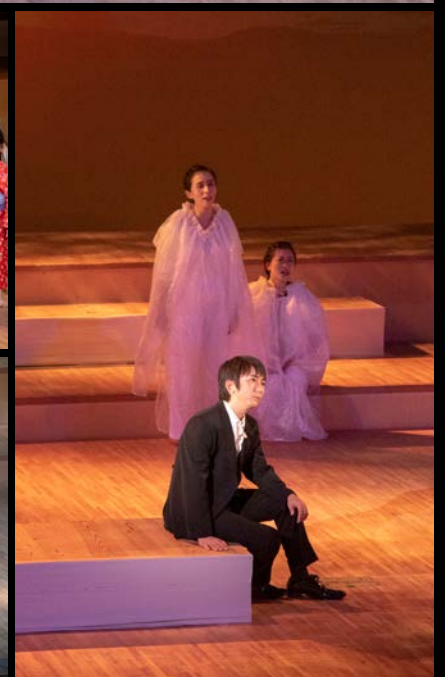
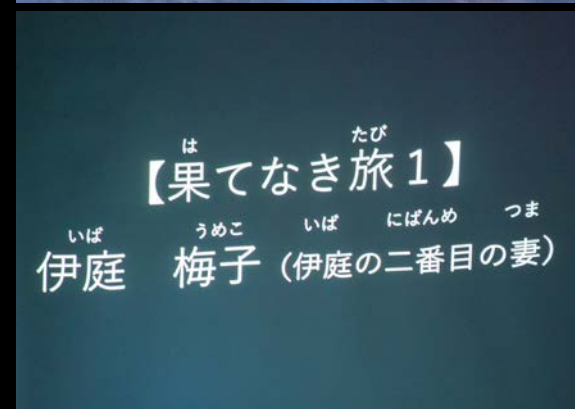
「天を敬い、人を愛する」の心

詩吟とは、1分30秒の芸術

新会員募集中！

free pâtissier
甘中 めぐみ
kannaka megumi子育て project
Love&Dreammemberデザートclass[riche]、食育セミナー
イベントフード
プロデュース、子育てプロジェクト☞me9u.to.yone@gmail.com
blog☆ameblo.jp/me9u37
LINE ID☆Lionnim















ペっしどうざん

別子銅山

別子銅山は、愛媛県新居浜市の山麓部にあった銅山。1690年（元禄3年）に発見され、翌年から1973年（昭和48年）までの282年間に約70万トンの銅を産出し、日本の貿易や近代化に寄与した。一貫して住友家が経営し（閉山時は住友金属鉱山）、関連事業を興すことで発展を続け、住友が日本を代表する巨大財閥となる礎となった。

概要

最初の採鉱は海拔1,000メートル以上の険しい山中（旧別子山村）であったが、時代と共にその中心は新居浜市側へ移り、それにつれて山の様相も変化していった。坑道は全長700キロメートル、また最深部は海拔マイナス1,000メートルにもおよび、日本で人間が到達した最深部である。

皇居前広場の公園内に現存する楠木正成像は、1900年（明治33年）に別子銅山の銅で献納された。また、1900年（明治33年）の銅山川鉱毒事件など、鉱毒事件が数回発生した。

閉山後の今は植林事業の成果もあり緑深い自然の山へと戻って、夢の跡のような産業遺跡がひっそりと佇んでいる状態であるが、近年はそれらの歴史的意義を風化させないことを目的として活用したマイントピア別子など観光開発が進み、新居浜市の新たな資源として甦りつつある。また、別子山村の合併により一体的な観光開発にも弾みがついている。

世界遺産登録への動き

近代産業遺産の宝庫として文化財関係者等からは注目されていたが、そのほとんどが住友グループに属することもあって、活用が進んでいなかった。こうした近代日本を切り開く礎となった産業開発の歴史さらにはその後の環境の復元という人の営みに着目し、また石見銀山が2007年（平成19年）6月28日にユネスコの世界遺産（文化遺産）へ登録が決定されたこともあって、別子銅山も世界遺産登録を目指す動きがある。日本を代表する金銀銅の産地である、新潟県佐渡市（金山）、島根県大田市（銀山）、愛媛県新居浜市（銅山）の3市長が集まって「金銀銅サミット」が2006年（平成18年）5月開催された。

関連の産業遺産

特長

別子銅山は、その種類・時代・地域の多様さ、広さにおいて、貴重な鉱業遺跡群を形成している。

別子銅山から発展してきた新居浜市には、鉱石の採掘から、精錬、関連して発生した化学工業、機械工業など、また工場・鉱業所だけでなく、社宅など生活の場も含めて、幅広い産業遺構群が現存し、一部は現在も用いられている。

その分布は、赤石山系の山中から、ふもとの端出場、山根地区、さらには海岸部の星越、惣開、新居浜港、さらに新居浜港の沖合いの四阪島（この島のみ新居浜市ではなく、今治市）に至るまで、南北方向に広範囲に分布している。

時代別には、開坑から明治、大正、昭和繁栄と閉山までの時代の変遷を示す一連の遺構が残存する。

別子鉱山を記念するシンボル施設として、新居浜市により端出場地区に「マイントピア別子」が整備されている。ただし、その敷地内に所在した採鉱本部などの建屋はそのほとんどが取り壊された。

鉱山鉄道

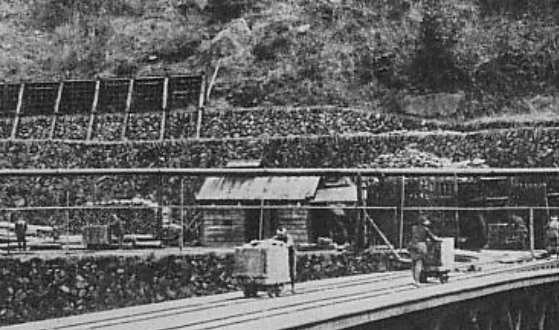
住友別子鉱山鉄道が、石ヶ山丈〜角石原、惣開〜端出場に走っていた。1893年(明治26年)に開業、1952年(昭和27年)に旅客営業廃止、1977年（昭和52年）に鉱山鉄道としても廃止となった。

筏津

筏津坑は赤石山系の南斜面に位置し、1878年（明治11年）に開坑され、最初は弟地坑（おとじこう）と呼ばれていた（弟地は付近の地名）。一時休止された時期もあったが、別子銅山の一支山として機能を果たしてきた。最初の坑口とは銅山川をはさんだ対岸に1940年（昭和15年）に筏津新坑口として開坑された坑口は1973年（昭和48年）の別子銅山閉山まで使われた。新坑口の近辺には、当時、社宅、クラブ、娯楽場、診療所、小売商店などが軒を連ね殷賑を極めていたが、閉山とともに人は去り静かな山に戻った。

東平地区

東平（とうなる）地区は、1916年（大正5年）から1930年（昭和5年）まで別子銅山採鉱本部が置かれていた。このような山中に、かつて多くの人が鉱業に従事し、その家族共々生活し、小中学校まであった「街」があったのかと信じられないように現在は山中に静まり返っているが、閉鎖された坑道や鉱物輸送用の鉄道跡などが残っている。付近は再整備され、歴史資料館や、保安本部跡を利用したマイン工房、花木園、高山植物園、子供広場などがある。また東平小学校、中学校の跡地には銅山の里自然の家がある。『東洋のマチュピチュ』と新聞に取り上げられ [6]、観光会社がツアーを企画するなど人気を集めつつある。



戦前の別子銅山

別子銅山　沿革

鉱山の発見鉱山の発見

大坂屋久左衛門経営の伊予国立川銅山で働いていた切場長兵衛は立川銅山に隣接する足谷山（別子）に銅鉱が連鎖しているのを覚り、備中の吉岡鉱山に住友の田向重右衛門（たむけじゅうえもん）を訪ね、見込みを告知した。田向は部下とともに長兵衛を案内人に、大坂屋に気づかれないように天満村から険しい山中を踏み越えて足谷山に入り、大鉱脈が横たわることを確認した。

○1690年（元禄3年）秋 - 田向重右衛門一行が別子銅山を検分。

開坑の計画

○1691年（元禄4年）4月、住友家は開坑を願い出たが、その条件は下記のとおり。

- 元禄4年6月から9年5月まで満5箇年請負
- 運上は銅1000貫につき130貫、代金は銅100貫目につき銀500目
- 炭窯運上は10口につき1箇年銀30枚、ただし毎月上納、
- 銅山付近の材木は残らず銅山付、
- 奥山大難所の林木で年々枯れ捨てる分は銅山用材として下付 など

であった。「1」は成績が不良であった場合は請負を辞退することを保留したもので、永代請負となったのは1702年(元禄15年)3月である。これよりさき同年1月、住友友芳は勘定奉行萩原重秀に呼び出され、成績不良で1698年（元禄11年）に請負を辞退した吉岡鉱山の経営を高圧的に命じられた。これは江戸幕府の貨幣政策で丁銅不足に悩んでいたためであり、友芳は交換条件として、下記の要望を提出した。

- 別子銅山と吉岡銅山に対して鉱業助成金10000両を貸し下げ
- 西国筋天領のうちから吉岡別子両従業員食糧用に米6000石払い下げ、ただし10ヶ月延買
- 別子銅山永代請負 など

住友による開坑

○1691年（元禄4年）　5月 - 別子銅山請負稼行認可。閏8月1日 - 採鉱開始。

○1698年（元禄11年）- 明治以前で最高の産銅量を記録。

○1819年（文政2年）- 阿波領吉野川筋で鉱毒問題を引き起こし、阿波藩主の訴願により幕府は検分使を派遣した。

○1865年（慶応元年）9月 - 広瀬幸平が別子支配人となる。

○1868年（明治元年）1月 - 大政奉還を受けて新政府は土佐藩に別子銅山を含む川之江幕府領の接收を命じた。

　　このとき広瀬幸平は土佐藩の川田小一郎と友好関係を結び住友家の別子経営を維持することに成功した。

○1874年（明治7年）3月 - フランス人鉱山技師レイ・ラロック、別子に赴任。

○1875年（明治8年）10月 - 鉱山目論見書完成、レイ・ラロック解雇。

○1893年（明治26年）　2月 - 住友別子鉱山鉄道の下部鉄道が開業。8月 - 住友別子鉱山鉄道の上部鉄道が開業。
　　　9月 - 煙害問題発生し、新居浜村長は「稲作被害原因の現地立会調査」を求めた。

○1896年（明治29年）6月 - 新精錬所の候補地を四阪島に決定。

○1899年（明治32年）8月 - 台風の集中豪雨により別子大水害が発生。512人が死亡。

○1900年（明治33年）1月 - 開坑200年を記念し皇居前に楠公銅像献納。

○1902年（明治35年）8月 - 第三通洞貫通。

○1905年（明治38年）1月 - 四阪島精錬所本格操業開始したが、本土側で稲の葉が漂白され、被害者側は大阪鉱山監督署に「煙害の防止か、製錬所の廃止か」を要求し、ある時は数千人の農民が抗議した。

○1911年（明治44年）2月 - 住友別子鉱山鉄道の上部鉄道廃止。

○1915年（大正4年）9月 - 第四通洞貫通し、全山の坑内水集め、新居浜港内の私設堀割から海中に流す。

○1924年（大正13年）11月 - 四阪島精錬所に大煙突完成。

○1927年（昭和2年）10月 - 鷲尾勘解治、最高経営者となる。

○1939年（昭和14年）　6月 - 新居浜築港完成。12月 - 四阪島精錬所煙害問題解決。

○1960年（昭和35年）9月 - 大斜坑の開削着手。

○1968年（昭和43年）3月 - 東平坑休止、東平撤退。

○1969年（昭和44年）2月 - 大斜坑完成。

閉山

○1973年（昭和48年）3月 - 筏津坑終掘、閉山。

○1975年（昭和50年）6月 - 別子銅山記念館開館。

○1977年（昭和52年）2月 - 住友別子鉱山鉄道廃止。

○1990年代後半、世界遺産登録を目指す動き始まる。

いば ていごう

伊庭貞剛（1847 年 2 月 19 日－1926 年 10 月 22 日）

伊庭 貞剛は、近江国出身の明治時代の実業家、第二代住友総理事である。「別子銅山中興の祖」と言われ、「東の足尾、西の別子」と言われた、住友新居浜精錬所の煙害問題の解決にあたった。植林など環境復元にも心血を注ぎ、企業の社会的責任の先駆者とも言われている。近江源氏佐々木氏支流伊庭氏の一族。

生涯

誕生

1847 年（弘化 4 年）、近江国蒲生郡西宿村（現・滋賀県近江八幡市）に伯太藩代官伊庭正人の長男として、母、北脇田鶴子の実家で生まれ、7 歳まで母方の実家で育つ。幼名は耕之助。八幡町の児島一郎に剣道を、西川吉輔に国学を学んだ。

官吏として

1868 年（明治元年）に朝廷に呼ばれた吉輔の後を追って上洛、京都御所禁衛隊に所属した。翌年には京都御留守刑法官少監察となり、さらに同年行政改革で新設された弾正台巡察局京都支部に異動する。この時期に大村益次郎暗殺事件が起こり、貞剛は上司の指示により暗殺犯の処刑中止に関わる。この件で同僚と共に東京に召還されるも権大巡察に昇任して長崎出張所に派遣される。 明治 5 年に昇進して司法少検事になり、翌 6 年函館裁判所に転勤する。その後副判事に昇任するも、帰京を願い、司法卿大木喬任に直訴し、明治 9 年に大阪上等裁判所に転勤を命じられる。

住友に入社

明治 11 年、33 歳の大阪上裁在任中、官界に失望して辞職、訪ねた叔父・広瀬幸平（住友総領事）の勧めにより 1879 年（明治 12 年）に住友に入社。3 ヶ月後に本店支配人となった後も住友家から才覚を高く買われ、さまざまな役職を経験。

1880 年に五代友厚、山本達雄らとともに私立大阪商業講習所を設置した。同所は後に府立商業学校（現、大阪市立大学）となった。多数の公職に請われて就いたほか、大阪紡績株式会社（のちの東洋紡）の設立にも参画、役員となった。このほか、大阪商船の設立などにも参画した。

この頃、知人である堺の指吸家の子息が天龍寺で出家した縁で同派の雲水が自宅に立ち寄るようになり、由利滴水・橋本昌禎・高木台岳らと知り合い、参禅につとめる。

1890 年（明治 23 年）、衆議院議員に滋賀県代表として初めて当選（滋賀第 3 選挙区）するも、住友友親、住友友忠の相次ぐ急死により、公職を全て辞して住友家の家督相続に奮闘し、徳大寺家より住友友純（西園寺公望の弟）を妹婿に迎えて 15 代を継がせた。

別子銅山問題への処置

明治 20 年代半ばから深刻さを増し、農民の県庁への直訴騒動が起こっていた煙害問題、及び、別子銅山を舞台とする住友内部の権力闘争を解決するため、1894 年（明治 27 年）に新居浜に赴き、四阪島への精錬所移転を計画。当時、四阪島は大島や弓削島の島民の所有地であったが、住友が動いていると悟られぬよう、腹心の社員に命じて伊庭の個人名義で買い取り、精錬所を移転させた。

また、銅山の開発により荒れるがままになっていた西赤石山系の山々に「別子全山を旧のおおおとした姿にしてこれを大自然にかえさねばならない」として植林を施すなど、環境復元にも心血を注いだ(別子大水害も参照)。それらの山林を管理するため後の住友林業を設立した。足尾銅山の鉾害を追及していた田中正造も、伊庭の一連の行動を評価し、別子銅山を「我が国銅山の模範」と評した。

総領事へ

1895 年（明治 28 年）に大阪と別子から集まりやすいよう尾道市で、住友の重役会議である会議（「尾道会議」）の議長（総理事は広瀬幸平の辞職により空席となっていた）を務め、合議制とするなど経営の近代化を推進、この時住友銀行の創設が決まった（広瀬は銀行業を好まなかったと伝えられる）。

1897 年（明治 30 年）1 月、総理事心得に昇任、1899 年（明治 32 年）に四阪島工事着手を見届けたのち新居浜を離任。この時の句が「五ヶ年の跡 見返れば 雪の山」。

1900 年（明治 33 年）、総理事へ昇任。

総領事引退

1904 年（明治 37 年）、58 歳の時に『実業之日本』誌に「少壮と老成」と題して勇退を説き（「事業の進歩発展に最も害するものは、青年の過失ではなくして、老人の跋扈である」が有名）、総理事職を鈴木馬左也に譲って引退（ただし家長の友純の説得により住友家関係の顧問等は続けた）。

引退後は、かねてより用意していた滋賀県石山（大津市）の別荘、活機園に住まう。大正 5 年には母親のために滋賀県で初めて自動車を購入し、遊山する。

1926 年（大正 15 年）10 月 22 日、石山の活機園にて没す。享年 80。滋賀県近江八幡市の伊庭氏一族の墓地に眠る。



伊庭貞剛（『幽翁』より）

いしだ

石多エドワード NPO 法人 東京オペラ協会 代表

1947 年 9 月 21 日 大阪市に生まれる

父はフィリピンで出生した日本人、母はスペイン系フィリピン人。

1965 年 3 月 大阪府立高津高校卒業

在学中、体操部部長、自治会会長。高校時代は社会を良くしようと政治活動に入りかけるが挫折。世界を変えるにはまず自らを鍛え直そうと決意し、世界の古典文学、古典美術、古典音楽を吸収することに全力をかける。

とりあえず哲学者になることを志望していたが、ベートーベンの後期弦楽四重奏に深く魅せられ、作曲家になるべく音大を目指す。

1996 年 4 月 武蔵野音楽大学声楽科に入学

歌と作曲の勉強を同時に始める。

しかし入学後、当時の音楽界の実態に違和感を感じ、新しい音楽活動を模索し始める。

1970 年 3 月 武蔵野音楽大学声楽科卒業

在学中、作曲を平井康三郎他に師事。卒業後、日本フーゴー・ヴォルフ協会の同人としてドイツ歌曲を中心とした演奏活動を始めるが、社会性に限界を感じ退会、オペラ界に飛び込みオペラ活動を始める。

1976 年 7 月 「東京オペラ協会」の前身、「グルーブ潮」第 1 回公演

以降、現在まで東京オペラ協会代表・芸術監督として下記の創作活動をしながら、東京オペラ協会の姉妹団体として生まれたオペラプラザ長崎、オペラプラザ福岡、オペラプラザ愛媛、オペラプラザ岡山、オペラプラザ関西、オペラプラザ東京の芸術監督も務める。

◎荒川区、豊島区、新宿区等で市民参加型のオペラ公演を全国に先がけて上演

全国各地にも紹介していく。現在、それが当会の主軸の一つであるユニバーサルデザインオペラの基礎となる。

◎欧州の古典作品を現代の視点から再構成した公演を続ける

○ビゼーの「カルメン」を東京山谷の夢物語に、またダンスオペラに。

○モーツァルトの「魔笛」を「魔法の笛と鈴」とミュージカル化し日本各地で 160 回以上の公演。

○モーツァルトの「フィガロの結婚」を歌舞伎オペラにして、やはり日本各地で 122 回の公演。

○ベートーベンの第九交響曲、バッハのマタイ受難曲のオペラ版を日本ではじめて上演。

◎「国際交流はオペラで！」と考え、日本から世界向けのオペラを創作・公演

○オペラ「忘れられた少年―天正遣欧少年使節」

（柴田南雄作曲、石多エドワード台本）公演回数 137 回。

○日中合作歌劇「蓬萊の国―徐福伝説」

（呂遠と共同作曲、遊仙三郎の筆名で台本）公演回数 34 回。

○日比合作オペラ「高山右近」

（マヌエル・マランバと共同作曲、永久村次郎の筆名で台本）公演回数 37 回。

○日本―スペイン合作オペラ「ザビエル」（イニゴ・サラシバル・カサリ作曲、

加賀乙彦原作、石多エドワード台本）公演回数 3 回。

◎またオペラ歌手としてもモーツァルトを特に愛し、

「フィガロの結婚」のフィガロとコンテ、

「ドン・ジョバンニ」のドン・ジョバンニとレポレッロ、

「コジ・ファン・トゥッテ」のドン・アルフォンゾ、

「魔笛」のパパゲーノとザラストロ等を数多く主演する。

◎石多エドワードのオリジナルの曲を中心に日本各地で 42 回のリサイタルを開催。

◎ 1979 年～ 1999 年 帝京大学において教鞭をとる。

「音楽」「音楽教育法」「現代芸術論」「現代アメリカ芸術論」「音楽実技」等を担当。

◎歌は素朴なもののほどいいと感じ、石多エドワード歌曲集「こんなに空が青い」を

2000 年 10 月再版。この歌集の中で、楽譜を二人で楽しく読めるようになる道も開く。

2012 年に楽譜集 歌劇「天空の町」発刊。2016 年 オペラエッセイ集発刊。

◎歌劇「天空の町」～別子銅山と伊庭貞剛～ を愛媛県新居浜市実行委員会の委嘱により創作。

2012 年から 23 回の公演。

◎現在、国際交流オペラやユニバーサルデザインオペラを全国で展開している

※公演回数は 2018 年 6 月現在
東京オペラ協会ホームページより引用



対談動画は右のQRコードをスマートフォンまたはタブレットのカメラで読み取りご覧いただけます

ダイジェスト動画
(映像時間：5分)



全編動画
(映像時間：125分)



小松電機産業株式会社

<https://www.komatsuelec.co.jp/>

〒690-0046 島根県松江市乃木福富町 735-188
TEL : 050-3161-2490 FAX : 050-3161-3846

無断転載禁止
No reproduction or
publication without written
permission.
ver.20190115 y.kobayashi